
第1章 本庄市と中心市街地の現況

1. 本庄市の現況

(1) 本庄市の位置・沿革

位置

本市は、東京から80km圏、埼玉県の西北に位置し、面積は89.71k㎡、人口は約8万人です。

東は深谷市、西は上里町・神川町、南は美里町・長瀨町・皆野町、北は利根川をはさんで群馬県伊勢崎市に接しています。

自然災害は少なく、気候は夏に雨量が多く、冬に少ない東日本型気候であり、水と緑豊かな自然環境に恵まれた地域です。

本市は、JR高崎線、JR八高線、上越新幹線、関越自動車道本庄児玉ICや国道17号・254号・462号などの主要道が縦横に走り、東京と上信越方面を結ぶ交通の要衝となっています。平成16年3月の上越新幹線本庄早稲田駅の開業に伴い、本市と東京駅は約50分で結ばれています。

歴史環境

本市の歴史は古く、埋蔵文化財の発掘調査の結果からも、縄文時代以前からすでにこの地に人が住んでいたことがうかがえます。「本庄」という地名は、鎌倉時代の史料にもその地名がみられ、歴史の古さが偲ばれます。

室町時代、児玉地域には、山内上杉氏によって雉岡城が築かれ、その城下が次第に整備され現在の児玉地域の興りとなりました。また本庄地域は、武蔵七党の一つである児玉党の子孫、本庄宮内少輔実忠が本庄城を築いたのをきっかけに、城下町として発展しました。その後、雉岡城は慶長6年(1601年)、本庄城は慶長17年(1612年)に廃城となりました。

本庄地域は、中山道最大の宿場町「本庄宿」として繁栄しました。明治に入って高崎線が開通すると、繭や生糸また農産物の集散地としての機能はますます強くなり、商業の発展へと結びつきました。戦後は積極的な工業団地の造成により、電気・機械などの工場誘致が進んでおります。また、江戸時代の盲目の国学者、塙保己一は本市の出身であり、古代から江戸時代初期にいたるまでの古書を集成した叢書『群書類従』の刊行や国学の研究の場として「和学講談所」を創設するなどの偉大な事業を成し遂げました。勉学と努力によって養われた博学と深い教養は、現在にいたるまで多くの人に語り継がれています。

沿革

本庄市は県内有数の大規模な原始・古代遺跡の分布地域で、奈良時代前後には児玉郡が設置されており、後には児玉庄(荘園)が経営されていました。

古代末になると、武蔵七党武士団の一つ児玉党が児玉氏によって勃興します。その後、氏名(うじな)は児玉庄氏から庄氏を経て、やがて宗家(本家)は本庄氏を名乗るようになります。その本拠は、上越新幹線本庄早稲田駅の東方一帯で、現在も字東本庄の地名が残されています。

児玉地区では、戦国時代に山内上杉が雉岡城を築城したと言われ、後に城下に営まれた家臣団を中心とする町屋が町の興りとされています。

本庄地区では、弘治2年(1556年)に、本庄宮内少輔実忠が、現在の市役所周辺に本拠を移動し、本庄城を築きました。その城下には本庄村ができ、江戸時代になると中山道の整備とともに、「本庄宿」が建設されました。天保14年(1843年)には、人口4,554人、1,212軒を数える中山道最大規模の宿場町となるまで発展しました。そして、明治の近代化とともに、養蚕の町本庄として発展の一途をたどっていきました。

明治22年(1889年)町村制の施行により本庄地区では、本庄宿が「児玉郡本庄町」となりました。児玉地区でも2町が合併し、「児玉郡児玉町」が誕生しました。また、両町周辺の村々も合併してあらたな村ができました。

昭和29年7月1日、本庄町と周辺4村は昭和の大合併により「本庄市」となり、さらに、昭和30年3月20日には、児玉町と周辺3村が合併し「児玉郡児玉町」の範囲が拡大しました。その後、昭和32年7月18日に両地区の間にあたる共和村が分村して、両市町へ編入されました。

それから50年前後を経た現在、全国で平成の大合併が進められており、旧本庄市と旧児玉郡児玉町も平成18年1月10日に合併し、新「本庄市」が誕生しました。

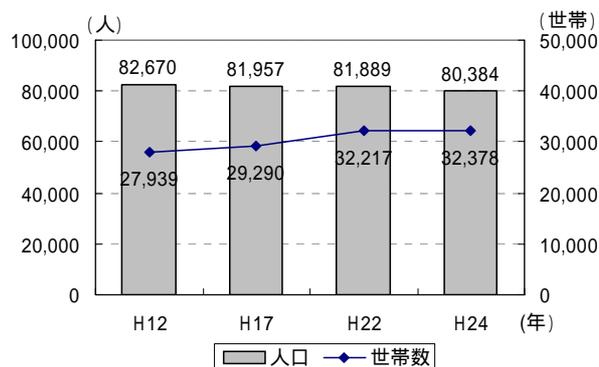
(2) 人口・世帯数

*平成 17 年以前の数値は、合併前の旧本庄市・旧児玉町の合算

人口・世帯数

人口は、平成 12 年以降減少を続け、平成 24 年現在 80,384 人となっており、平成 12 年からの減少率は 2.8% となっています。

一方、世帯数は増加傾向にあり、一世帯あたりの人員は、平成 12 年に 2.96 人、平成 24 年には 2.48 人に減少しました。



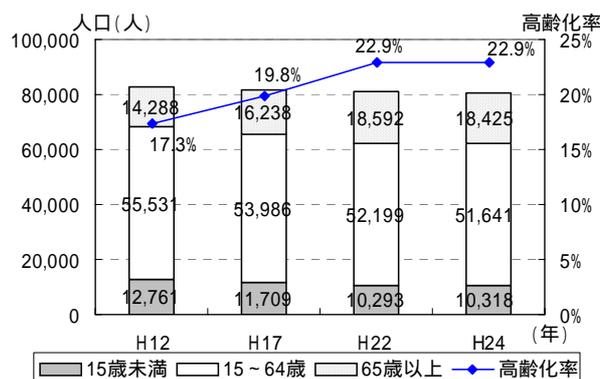
(資料：国勢調査、
H24 年の数値は住民基本台帳 10 月 1 日現在)

年齢別人口

65 歳以上が増加しているのに対し、15 歳未満、15～64 歳はともに減少し、高齢化が進んでいます。

平成 24 年の高齢化率は 22.9% まで高まりました。

(内閣府発表高齢社会白書：平成 23 年現在の埼玉県の高齢化率 20.9%)



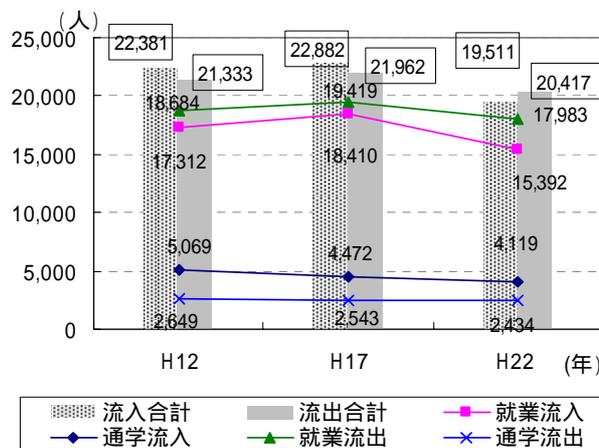
(資料：国勢調査、
H24 年の数値は住民基本台帳 10 月 1 日現在)
*H12～H22 は、調査上で年齢未回答者がいるため、
全体人口数(上記の表)とは誤差が生じる。

(3) 流出人口

流入・流出の推移

通学では、流入が流出を上回っていますが、就業では逆に流出が流入を上回っています。

全体では、平成 17 年までは流入が流出を上回っていましたが、平成 22 年には逆転し流出が上回りました。



(資料：国勢調査)

通勤通学流動

本庄市を中心とした通勤・通学の流動状況を見ると本庄市内が最も多く約半数の22,628人ですが、平成12年、平成17年と比べて市内の流動は減少しています。

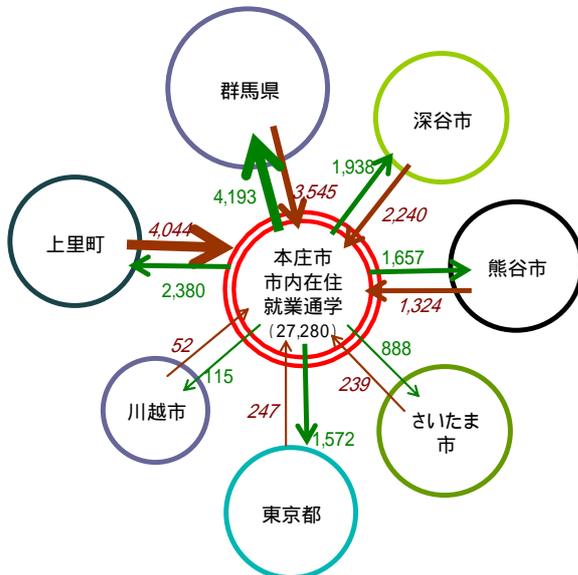
通勤・通学先では群馬県（10.4%）、深谷市（8.3%）、上里町（6.2%）が、本庄市への通勤・通学では群馬県（9.0%）、上里町（9.0%）、深谷市（8.3%）が上位となっており、特に群馬県との流動が多く見られます。

これらは平成12年と同様の傾向を示しています。

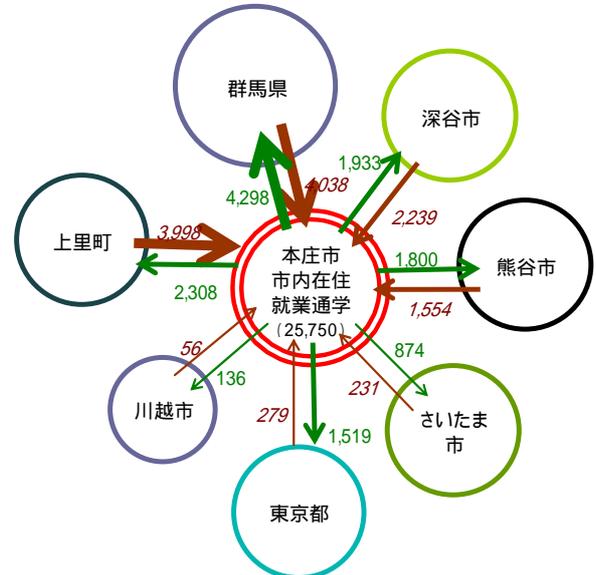
平成22年（資料：国勢調査）



平成12年（資料：国勢調査）



平成17年（資料：国勢調査）



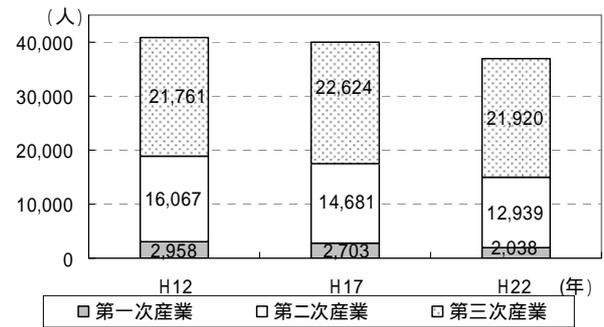
(4) 産業動向

産業別人口

平成12年から平成22年までで産業人口は約1割減少しています。

特に第二次産業の減少が著しく約2割減少しています。

第三次産業をみると、平成17年に増加しているものの、再び減少し、平成12年と同程度になっています。



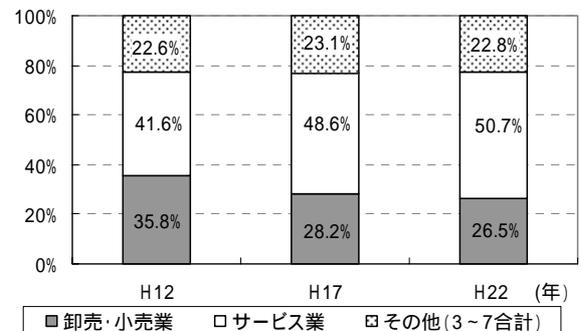
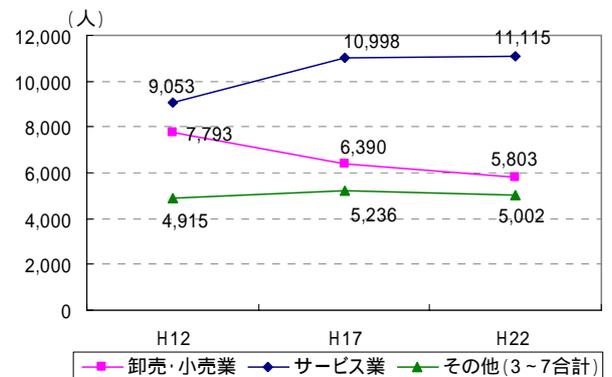
(資料：国勢調査)

第三次産業業種別人口

第三次産業全体では、平成17年に増加したものの、平成22年に減少し、最終的には平成12年との比較で微増となっています。業種別にみるとサービス業は増加を続けており、全体の50.7%を占めています。

一方、卸売・小売業の就業人口は平成12年の35.8%から、平成22年には26.5%まで減少しています。

年	H12	H17	H22
1 卸売・小売業	7,793	6,390	5,803
2 サービス業	9,053	10,998	11,115
3 保険・金融業	725	643	606
4 不動産業	317	346	478
5 運輸・通信業	2,400	2,649	2,579
6 電気・ガス・水道業	159	122	129
7 公務	1,314	1,476	1,210
その他(3~7合計)	4,915	5,236	5,002
総合計	21,761	22,624	21,920

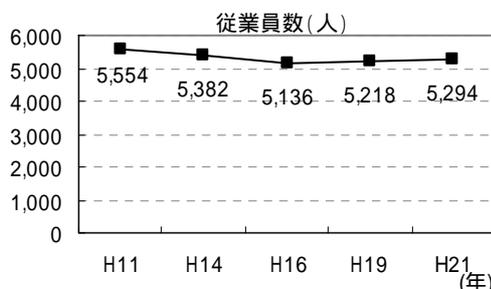
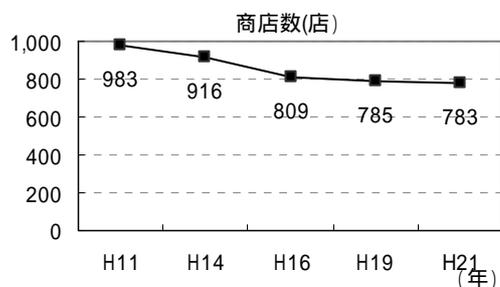


(資料：国勢調査)

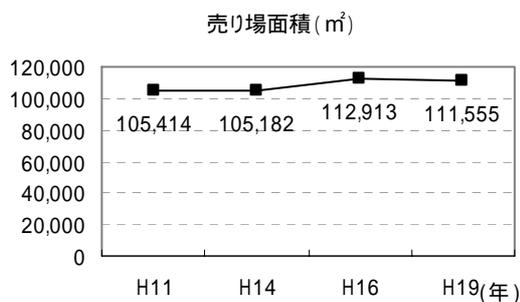
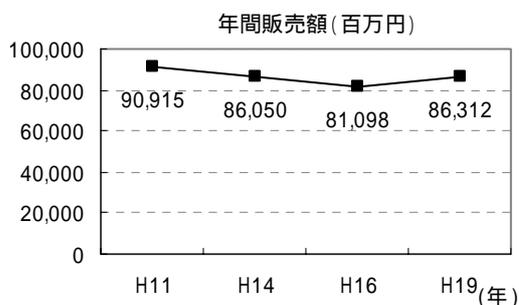
(5) 商業動向

商業動向

小売業商店数は、年々減少しており平成 21 年調査では 783 店と、10 年間で 200 店（約 20%）減少しました。一方、従業員数はほぼ横ばい状況にあります。



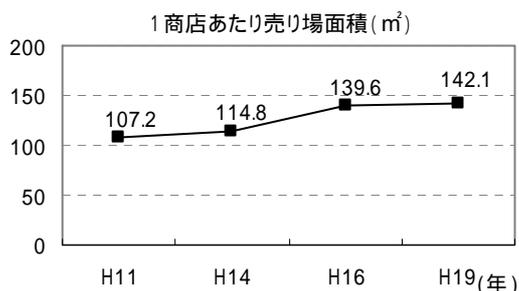
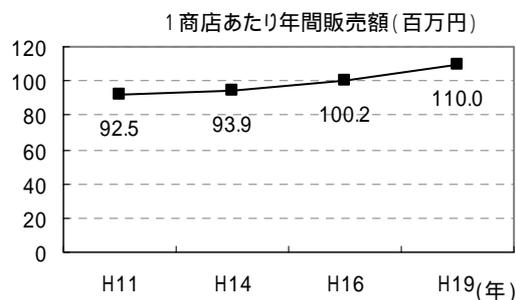
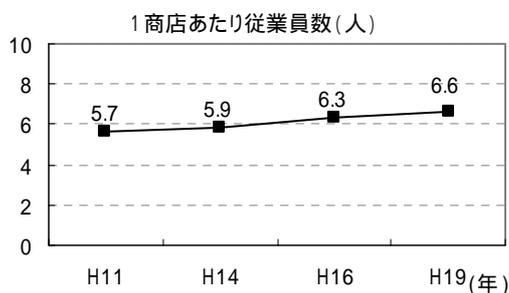
年間販売額は、平成 16 年にかけて減少したものの平成 19 年には増加に転じています。売り場面積は、平成 11 年から平成 16 年にかけて増加し、その後横ばいです。



(資料：商業統計調査・経済センサス)

商業指標

1 商店あたりの従業員数、年間販売額、売り場面積はともに増加を続けており、店舗の大型化が認められます。



(資料：商業統計調査・経済センサス)

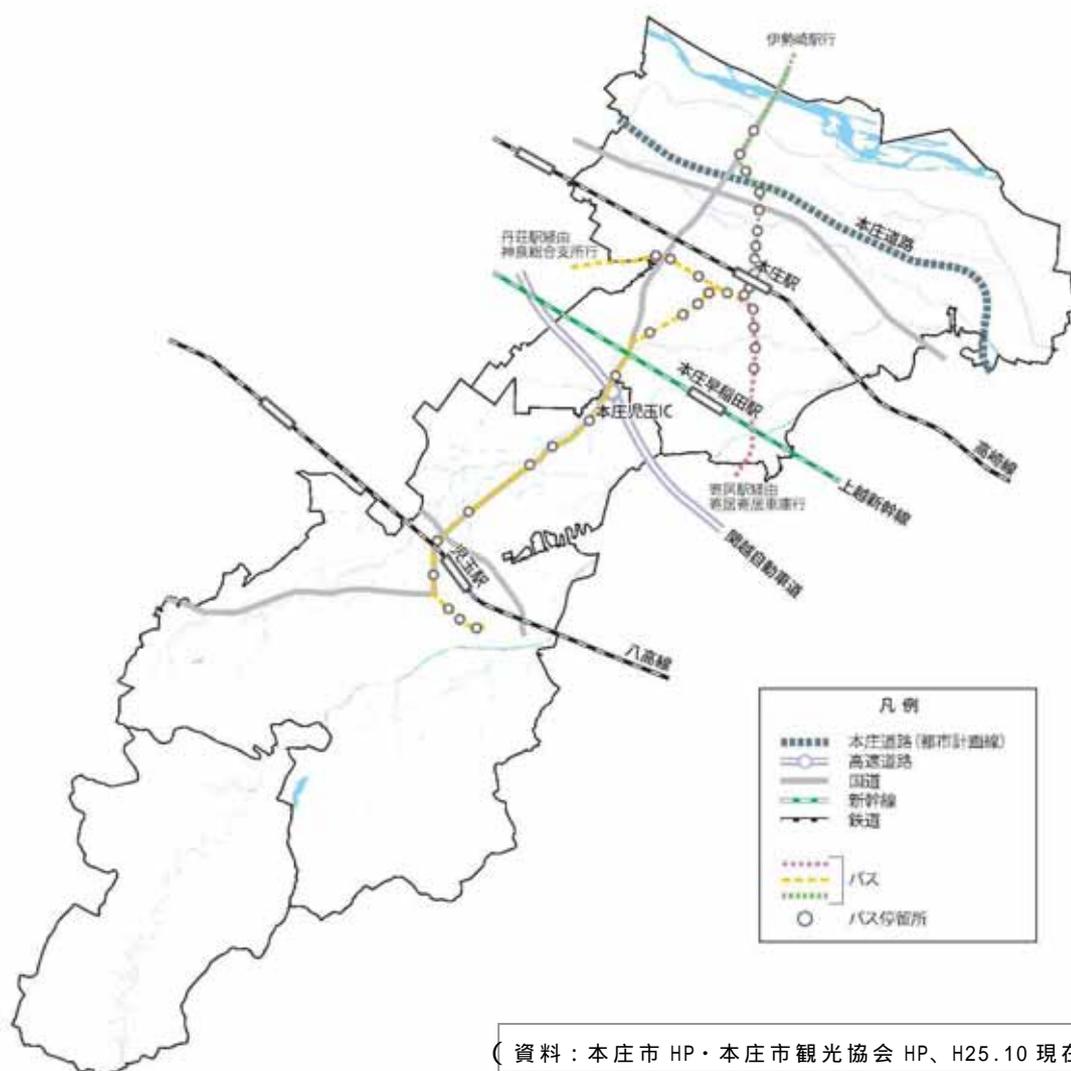
(6) 交通体系 (道路、鉄道 (乗車客))

交通体系図

鉄道では、JR高崎線（本庄駅）、JR八高線（児玉駅）、上越新幹線（本庄早稲田駅）の3駅を有しています。平成16年の本庄早稲田駅開業、高崎線の湘南新宿ラインによる池袋・新宿方面への直通運転が開始されるなど、利便性が向上しました。今後は東京駅への乗り入れも予定されており、さらなる利便性の向上が見込まれます。

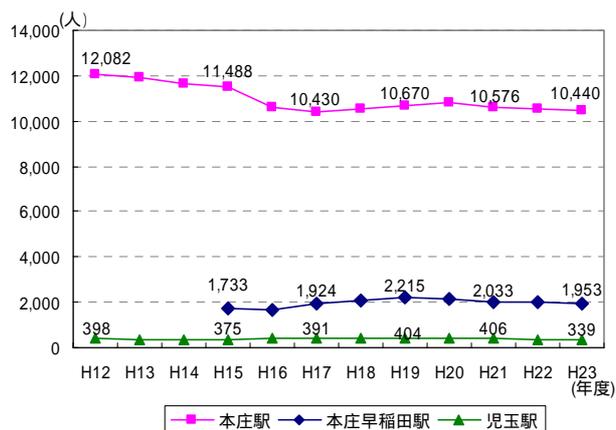
道路網では、関越自動車道本庄児玉ICを有し、国道17号・254号・462号が通り、東京～埼玉～群馬、そして上信越、北陸方面を結ぶ交通の要衝となっています。

市内には、本庄駅と伊勢崎駅や神泉総合支所などを結ぶ路線バスの他、駅間を結ぶシャトル便、予約に基づき区域内を運行するデマンド交通も運行しています。



鉄道乗車客（1日の平均乗車人員）

1日の平均乗車人員は平成12年度以降減少傾向にありましたが、平成16年以降は横ばいとなっています。

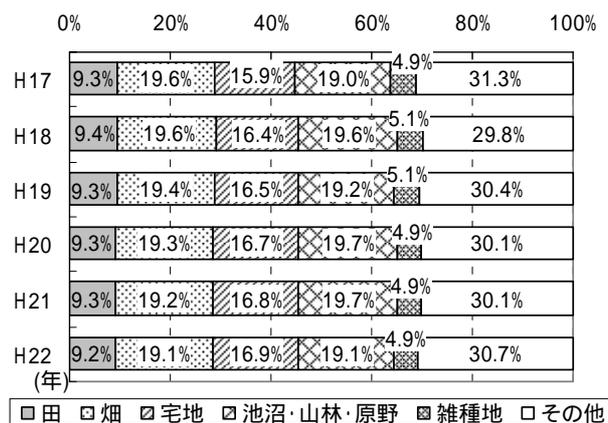


（資料：JR東日本）

（7）土地利用

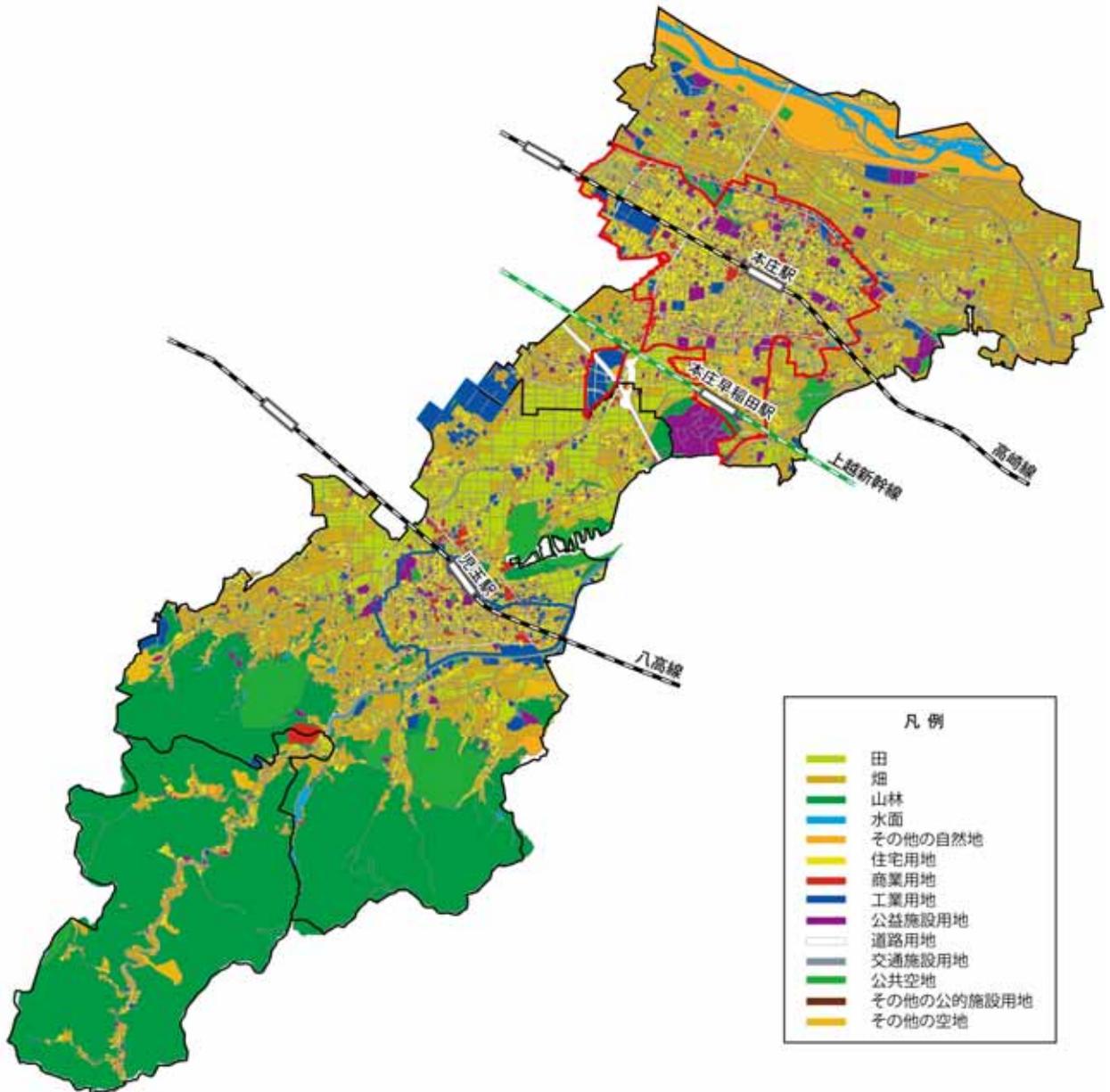
地目別面積比率

全ての地目について、大きな変動はなく、ほぼ同様の土地利用が行われています。



（資料：統計ほんじょう）

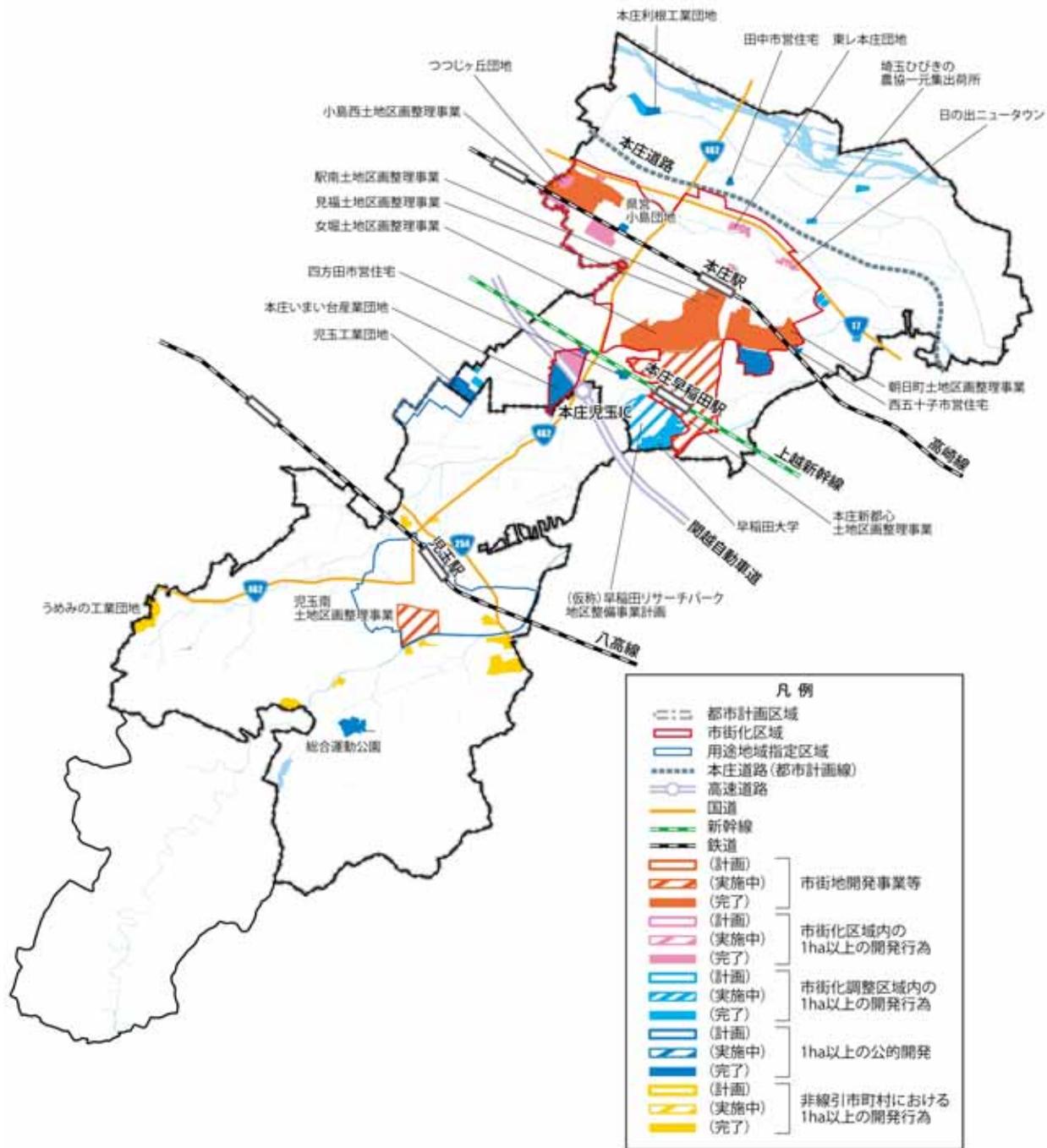
土地利用現況図



(資料：平成 22 年都市計画基礎調査)

(8) 市街地開発等

市街地開発事業



(資料 : 平成 22 年都市計画基礎調査)

都市公園整備状況

【本庄地域】

市街化調整区域			
公園名	面積	公園名	面積
万年寺下公園	1.21	寿こども広場	0.01
本庄ふるさとフラワーパーク	1.97	下仁手公園	0.08
向河原公園	0.18	利根川自由広場	0.72
堀田農村公園	0.20	利根川芝生広場	2.69
傍宗堂農村公園	0.20	森と泉公園	2.34
久々字農村公園	0.11	花の木公園	0.02
仁手農村公園	0.31	本庄総合公園	18.89
小和瀬農村公園	0.26	東今井小公園	0.01
田中農村公園	0.15	四季の里緑地5	0.38
		供用	26.32
		供用されていない	3.41

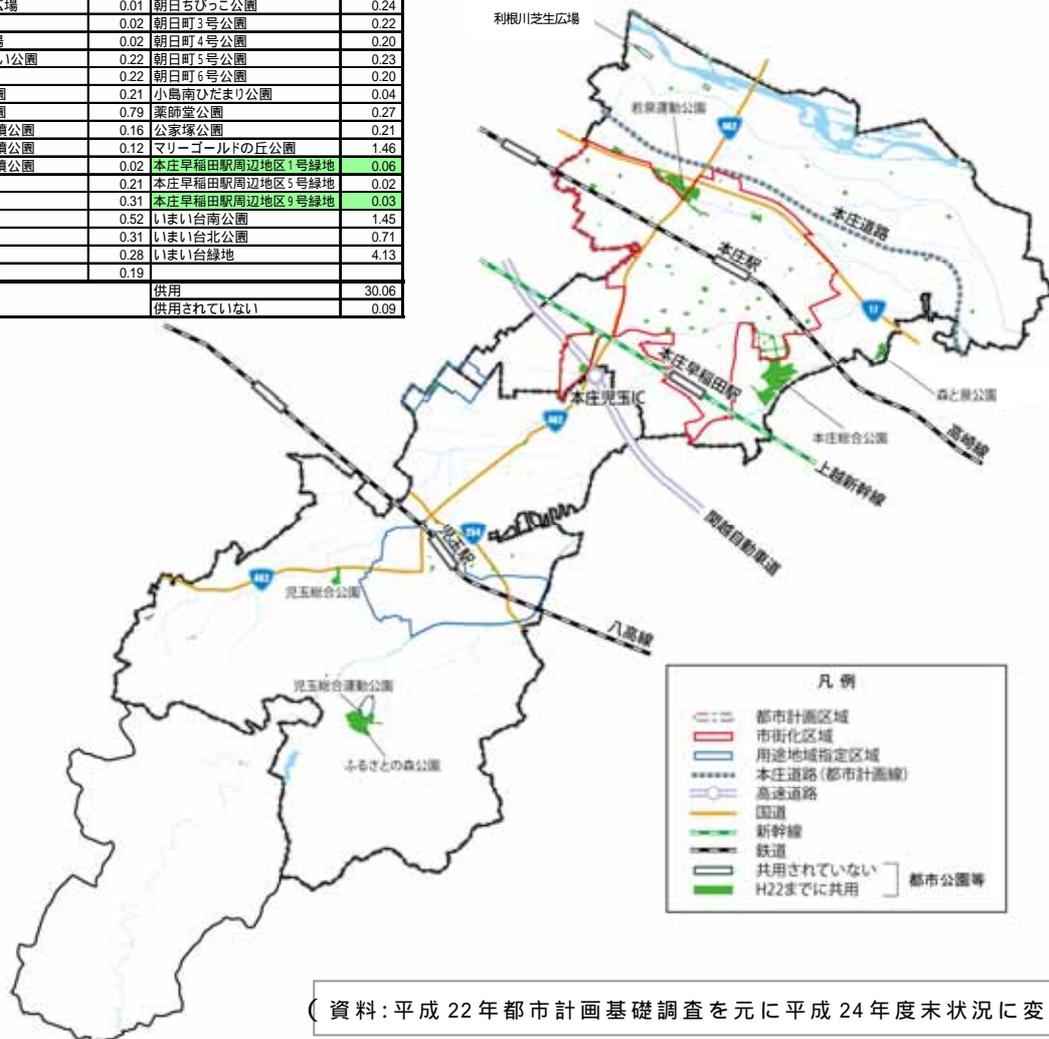
市街化区域			
公園名	面積	公園名	面積
若泉運動公園	8.30	くるみ公園	0.22
日の出公園	0.19	どんぐり公園	0.51
若泉第一公園	0.68	さくら公園	0.23
若泉第二公園	1.38	かえで公園	0.15
みずき公園	0.06	栄公園	0.17
つつじ公園	0.15	駅前公園	0.23
千代田小公園	0.02	柏第二公園	0.08
城下小公園	0.02	四季の里第一公園	0.56
本庄小公園	0.02	四季の里第二公園	0.36
やまぶき公園	0.04	四季の里東公園	0.49
おじま台小公園	0.02	四季の里西公園	0.19
本庄こども広場	0.05	四季の里緑地	0.92
東台こども広場	0.03	四季の里緑道	1.08
金嶺ふれあい公園	0.24	前原公園	0.05
日の出こども広場	0.01	新田原農村公園	0.03
仙南こども広場	0.02	小島南なかよし公園	0.05
東台ふれあい公園	0.02	松原こども広場	0.02
ことぶき公園	0.27	ボニー公園	0.21
千代田こども広場	0.01	朝日ちびっこ公園	0.24
みどりが広場	0.02	朝日町3号公園	0.22
若泉こども広場	0.02	朝日町4号公園	0.20
万年寺ふれあい公園	0.22	朝日町5号公園	0.23
小島西公園	0.22	朝日町6号公園	0.20
小島西3号公園	0.21	小島南ひだまり公園	0.04
小島西4号公園	0.79	薬師堂公園	0.27
小島西1号古墳公園	0.16	公家塚公園	0.21
小島西2号古墳公園	0.12	マリーゴールドの丘公園	1.46
小島西3号古墳公園	0.02	本庄早稲田駅周辺地区1号緑地	0.06
柏公園	0.21	本庄早稲田駅周辺地区5号緑地	0.02
けやき公園	0.31	本庄早稲田駅周辺地区9号緑地	0.03
見福公園	0.52	いまい台南公園	1.45
いちよう公園	0.31	いまい台北公園	0.71
もみのき公園	0.28	いまい台緑地	4.13
ねむのき公園	0.19		
		供用	30.06
		供用されていない	0.09

【児玉地域】

用途地域指定区域	
公園名	面積(ha)
児玉児童公園	0.27
共栄公園	0.77
上町がけつパーク	0.01
児玉工業団地緑街緑地	0.24
第一金屋公園	0.25
千本桜公園	0.36
桜花木公園	0.25
供用	1.90
供用されていない	0.25

用途地域指定区域外	
公園名	面積(ha)
下町児童公園	0.11
吉田林児童公園	0.15
児玉総合公園	2.03
宮内公園	1.10
児玉総合運動公園	8.02
ふるさとの森公園	2.60
経川農村公園	0.21
思池親水公園	0.11
戸森公園	0.01
高柳公園	0.03
清水の池公園	0.10
鳩保己公園	0.10
戸森第二公園	0.02
供用	14.53
供用されていない	0.06

* : 供用されていない



(資料:平成22年都市計画基礎調査を元に平成24年度末状況に変更)

(9) 歴史・観光資源、公共施設

文化財・観光資源

市内には、国の指定文化財（1件）である塙保己一旧宅（No.1）や国登録有形文化財（8件（No.2～9））の旧本庄商業銀行煉瓦倉庫（No.2）、本庄仲町郵便局（No.3）など多くの歴史資源が点在しています。

また、市街地を中心に本庄まつりや児玉まつり、祇園まつりなどのお祭りが催されており、小山川両側約5kmに渡る「こだま千本桜」は桜の名所として親しまれています。

【文化財一覧】

国指定文化財(1件)

名称
1 塙保己一旧宅

国登録有形文化財(8件)

名称
2 旧本庄商業銀行煉瓦倉庫
3 本庄仲町郵便局
4 児玉町旧配水塔
5 間瀬堰堤
6 間瀬堰堤管理橋
7 寺坂橋
8 賀美橋
9 湊岡橋

埼玉県指定文化財(17件)

名称
10 旧本庄警察署
11 城山稲荷のケヤキ
12 金鑽神社のクスノキ
13 荘小太郎頼家供養塔
14 諸井家住宅
15 勝進社模範蚕室
16 八幡神社社殿及び青銅製鳥居
17 銅鐘
18 木造阿弥陀三尊像
19 板石塔婆
20 塙保己一遺品及び関係資料
21 雉岡城跡
22 鷺山古墳
23 骨波田のフジ
24 岡登景能生地
25 飯倉御厨跡
26 宿勝寺裏壇輪窠跡 付釈形埴輪4

建造物(9件)

名称
27 田村本陣の門
28 本庄金鑽神社の大門
29 本庄金鑽神社の社殿
30 円心寺の山門
31 安養院本堂・山門及び総門
32 八幡神社隨身門
33 八幡神社能楽殿
34 成身院百体観音堂
35 秋山十二天社社殿

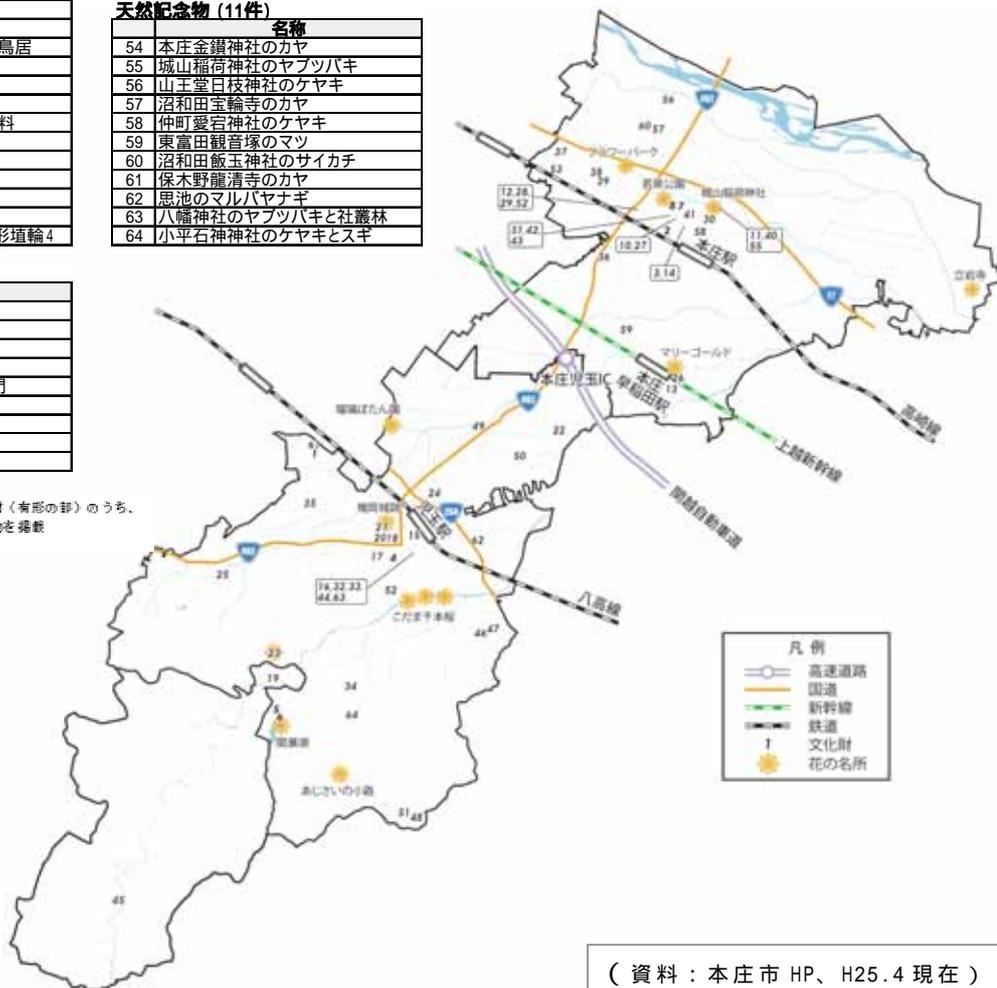
史跡・旧跡(18件)

名称
36 二本松遺跡古墳時代集落跡
37 小島八幡山古墳
38 小島登影山古墳
39 小島山の神古墳
40 本庄城址
41 小笠原信綱夫妻の墓
42 菅貫上人の墓
43 小倉家の墓碑群
44 八幡神社の高札場
45 太駄の高札場
46 秋山庚申塚古墳 付出土品
47 秋山古墳群
48 岩谷堂
49 平重衡首塚
50 入浅見金鑽神社古墳 付出土品
51 陣見平
52 長沖32号墳
53 万年寺つつじ山古墳 付出土品

天然記念物(11件)

名称
54 本庄金鑽神社のカヤ
55 城山稲荷神社のヤブツバキ
56 山王堂日枝神社のケヤキ
57 沼和田宝輪寺のカヤ
58 仲町愛宕神社のケヤキ
59 東富田観音塚のマツ
60 沼和田飯玉神社のサイカチ
61 保木野龍清寺のカヤ
62 思池のマルバヤナギ
63 八幡神社のヤブツバキと社叢林
64 小平石神社のケヤキとスギ

※国・県指定文化財及び市指定文化財（有形の部）のうち、建造物、史跡・旧跡、天然記念物を掲載



(資料：本庄市 HP、H25.4 現在)

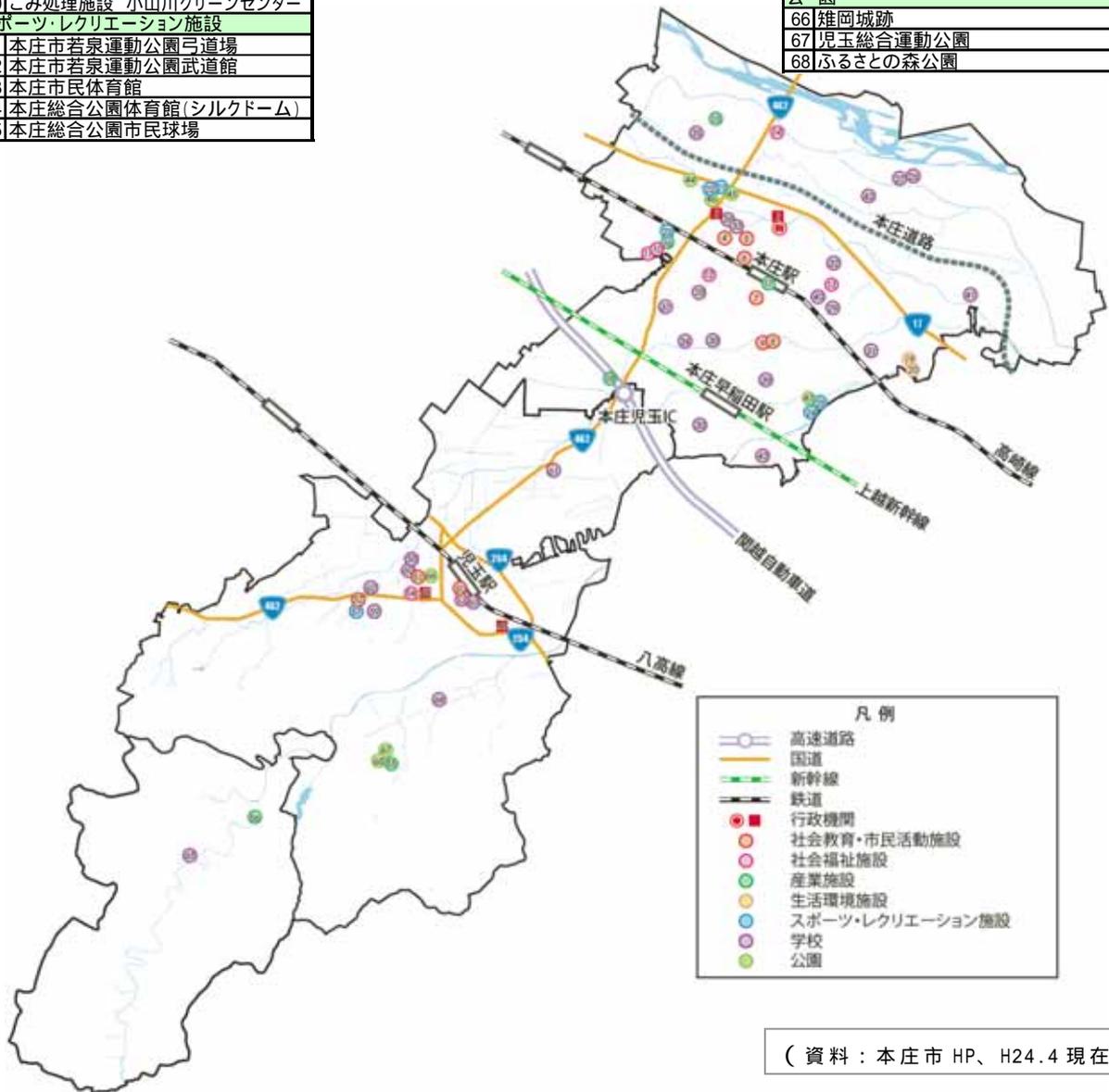
公共施設位置図

【本庄地域】

No	名称	No	名称
行政機関		学校	
1	本庄市役所	26	埼玉県立本庄北高等学校
2	本庄警察署	27	本庄第一高等学校
3	本庄市水道庁舎	28	埼玉県立本庄高等学校
社会教育・市民活動施設		29	本庄東高等学校
4	本庄市立図書館	30	早稲田大学本庄高等学院
5	本庄市立歴史民俗資料館	31	本庄東高等学校附属中学校
6	本庄市民プラザ跡地	32	本庄市立本庄東中学校
7	本庄市コミュニティセンター	33	本庄市立本庄西中学校
8	本庄市民文化会館	34	本庄市立本庄南中学校
9	本庄市中央公民館	35	本庄市立旭小学校
社会福祉施設		36	本庄市立本庄西小学校
10	本庄市障害福祉センター	37	本庄市立本庄南小学校
11	本庄市保健センター	38	本庄市立中央小学校
12	本庄市前原児童センター	39	本庄市立北泉小学校
13	本庄市日の出児童センター	40	本庄市立本庄東小学校
14	老人福祉センターつきみ荘	41	本庄市立藤田小学校
産業施設		42	本庄市立仁手小学校
15	本庄市あさひ多目的研修センター	43	埼玉県立本庄特別支援学校
16	本庄市勤労青少年ホーム	公園	
17	本庄市インフォメーションセンター	44	本庄ふるさとフラワーパーク
18	本庄いまい台交流センター	45	若泉公園
生活環境施設		46	若泉運動公園
19	余熱利用施設 湯かっこ	47	本庄総合公園
20	ごみ処理施設 小山川クリーンセンター		
スポーツ・レクリエーション施設			
21	本庄市若泉運動公園弓道場		
22	本庄市若泉運動公園武道館		
23	本庄市民体育館		
24	本庄総合公園体育館(シルクドーム)		
25	本庄総合公園市民球場		

【児玉地域】

No	名称
行政機関	
48	本庄市児玉総合支所
49	児玉警察署
社会教育・市民活動施設	
50	本庄市競進社模範蚕室
51	本庄市塙保己一記念館
52	本庄市児玉文化会館(セルディ)
社会福祉施設	
53	児玉中央公民館
54	本庄市児玉保健センター
産業施設	
55	本庄市観光農業センター
56	本庄市ふれあいの里いずみ亭
スポーツ・レクリエーション施設	
57	本庄市児玉総合公園体育館(エコーピア)
学校	
58	埼玉県立児玉高等学校
59	埼玉県立児玉白揚高等学校
60	本庄市立児玉中学校
61	本庄市立共和小学校
62	本庄市立金屋小学校
63	本庄市立児玉小学校
64	本庄市立秋平小学校
65	本庄市立本泉小学校(休校中)
公園	
66	雉岡城跡
67	児玉総合運動公園
68	ふるさとの森公園



(10) 大規模店舗出店状況

大規模店舗の出店状況を見ると、平成12年以後、第一種大規模小売店舗が6店舗増加しました。増加した6店舗は郊外型の大規模店舗が多く、都市の分散化の傾向を示しています。

種	店舗の名称	店舗面積(㎡)	開店年月	所在地
1	ベルク、トステムビバ(バナースビル)	12,886	S55.4	本庄2-3-6外
1	アビタ本庄店	11,070	H1.3	南1-2-10
1	カインズホーム児玉店	3,492	H1.6	児玉町八幡山9-4
1	赤かんぱんベルク東台店(アンモール本庄)	3,718	H5.10	東台5-4-13
1	ヤオコー児玉バイパス店(児玉ショッピングプラザ)	4,056	H7.11	児玉町児玉2318-1
1	カワチ薬局本庄店	3,780	H12.9	西富田262-1
1	ヤマダ電機テックランド本庄店	3,227	H12.9	日の出4-5-17
1	ワンダーグー本庄店、ハードオフ本庄店	3,637	H21.7	寿3-4-22
1	ケースデンキ本庄店	6,401	H21.12	万年寺1-13-10
1	フレッセイ児玉店	5,278	H22.11	児玉町八幡山45-1外
1	ベスタ本庄	7,400	H24.7	寿3-269-1外
2	ホームマートセキチュー本庄店	2,180	H6.12	西富田430-1
2	ヤオコー児玉南店(丸平ビル)	1,693	H9.12	児玉町児玉308-3

- ・店舗の名称は、大規模小売店舗立地法上の名称である。
- ・平成25年10月現在で営業はしていない店舗は削除している。



(11) 観光入込客数

目的別入込客数

本庄市には過去3年約130万人の観光入込客があり、「行事・まつり」、「花見・紅葉狩り」、「スポーツ客」が主な来訪目的となっています。「行事・まつり」については、夏の『本庄祇園まつり』、秋の『本庄まつり』や『児玉まつり（夏、秋）』が、「花見・紅葉狩り」については城山公園、こだま千本桜、若泉公園等が、「スポーツ客」についてはゴルフ場（3ヶ所）が主な来訪ポイントとなっています。

（単位：千人）

観光客数	観光客数	ハイキング・登山	花見・紅葉狩り	釣り	寺社参詣・文化財天然記念物見学	遊園地	行事・まつり	スポーツ客	産業観光	うち観光農業	その他
県計	114,329.5	3,047.4	6,899.3	853.6	9,932.4	14,841.0	28,781.0	24,037.5	14,719.9	4,229.4	11,217.4
児玉都市計	2,337.7	10.9	257.8	50.7	170.5	215.6	627.1	620.5	344.7	222.7	39.9
本庄市	1,291.2	6.4	233.9	35.3	73.2	209.9	462.7	222.3	40.9	12.9	6.6
美里町	243.6	0.8	2.0	0.0	2.0	0.0	86.0	146.3	6.5	6.5	0.0
神川町	663.7	3.7	21.9	12.1	93.6	1.6	71.0	129.2	297.3	203.3	33.3
上里町	139.2	0.0	0.0	3.3	1.7	4.1	7.4	122.7	0.0	0.0	0.0

（資料：H22 埼玉県入込観光客「推計」調査）

利用別入込客数

観光入込客のうち日帰りの方が大半を占め、約128万人となっています。

（単位：千人）

	観光客数	県内・県外別						不明
		県内			県外			
		日帰り	宿泊	計	日帰り	宿泊	計	
県計	114,329.5	48,983.4	900.8	49,884.2	15,367.7	931.5	16,299.2	48,146.1
児玉都市計	2,337.7	1,448.8	15.2	1,464.0	451.9	10.4	462.3	411.4
本庄市	1,291.2	1,056.7	5.0	1,061.7	225.5	4.0	229.5	0.0
美里町	243.6	99.0	0.0	99.0	106.4	0.0	106.4	38.2
神川町	663.7	164.7	10.2	174.9	109.2	6.4	115.6	373.2
上里町	139.2	128.4	0.0	128.4	10.8	0.0	10.8	0.0

（資料：H22 埼玉県入込観光客「推計」調査）

2. 上位関連計画等の整理

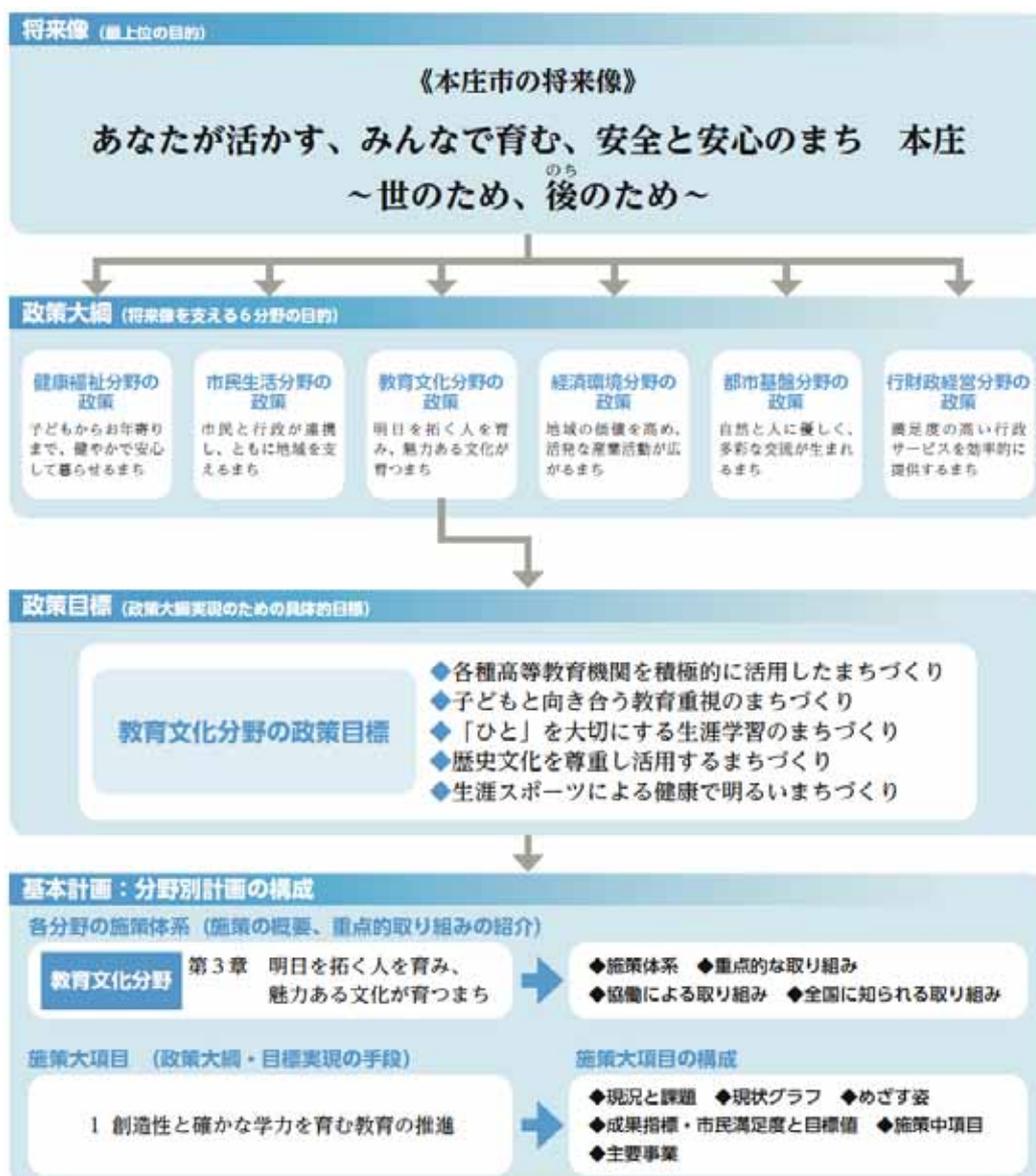
(1) 本庄市総合振興計画（後期基本計画）

本市は、平成 20 年度（2008 年度）に、10 年間のまちづくりの基本方針として「本庄市総合振興計画」を策定し、基本構想に掲げる将来像「あなたが活かす、みんなで育む、安全と安心のまち 本庄～世のため、後のため～」の実現に向け、前期基本計画に基づいて様々な施策に取り組んできました。

前期基本計画が平成 24 年度（2012 年度）で終了することから、様々な社会情勢の変化とそれに伴う新たな課題に対応した施策展開を図るため、計画期間を平成 25 年度（2013 年度）から平成 29 年度（2017 年度）までの 5 年間とした後期基本計画を策定しました。

《 後期基本計画の策定方針 》

「市民参加機会の創出・行政運営から行政経営へ・次のステップへ」



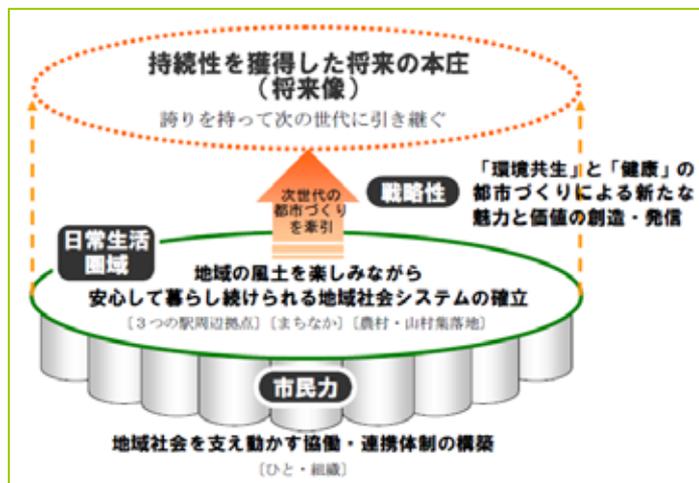
(2) 本庄市都市計画マスタープラン

本庄市都市計画マスタープランは、平成18年1月10日の旧本庄市・旧児玉町の合併後、新しい“本庄市”としてはじめて策定した都市づくりの基本的な方針で、埼玉県及び児玉郡市地域の広域的なビジョンや本市の総合振興計画（市政の総合的な指針）に沿ったものとなっています。

本庄市は、本庄都市計画区域と児玉都市計画区域のうちの旧児玉町の区域、都市計画区域が定められていない区域（都市計画区域外）に分かれています。本計画は、本庄市全域を対象とし、一体の区域として捉えて、それぞれの特性や課題、魅力を活かした都市づくりの方針を定め、まちの将来像を「持続性を獲得した将来の本庄」（誇りを持って次の世代に引き継ぐ）として、「日常生活圏域」「戦略性」「市民力」の3つの視点の基本目標にそって今後のまちづくりを展開するとされています。

本庄市中心市街地が含まれる“本庄北地域”については、「周辺都市との往来が便利で、若い世代の定住や高齢者の安心居住が進むまち」、「一年を通じて賑わいのある、歩いて楽しいまち」、「休日に散歩やジョギング、サイクリングしたくなるまち」を目標に掲げ、主要課題の解決に向けた各種の施策に取り組むとされています。

《都市づくりの基本目標》



《地域別構想（本庄北地域）》



（４）特定エリアを想定した戦略的な地域づくり【目標と施策】

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ●周辺都市との往来が便利で、若い世代の定住や高齢者の安心居住が進むまち ●一年を通じて賑わいのある、歩いて楽しいまち ●休日に散歩やジョギング、サイクリングしたくなるまち 								
施 策	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center; width: 15%;">本庄駅北口</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◇駅直近の交通利便性に恵まれた新しい市街地像の創出 <ul style="list-style-type: none"> ▶まちなみを活かした小規模で協調的な建替え等の促進 ▶地域の特徴を考慮した空き地・空き家の効果的な活用（空き地を活用した小規模な公園・緑地の確保など） ▶都市基盤の整備にあわせた土地の有効・高度利用の促進（定住の魅力を高める住宅・生活利便施設等の誘導） ▶若い世代のための多様な定住促進策の展開 ▶福祉・医療サービスの利用を前提とした加齢対応型住宅の誘導 ▶ライフステージの変化に対応した住み替え支援 ◇居住回復の進展にあわせた商業・サービス機能の誘導 ◇市民プラザ跡地複合施設を拠点とした市民活動や賑わいづくりの展開（まちづくり活動の連携等） </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">中山道／銀座通り／本庄駅前通り</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◇本庄祇園まつり、本庄まつりのメインストリートとして、宿場町の名残を感じさせる修景・まちなみ形成 ◇蔵や町家、レンガ造りの建物、空き地を活用した賑わい・まちなか滞在の場所づくり ◇中山道を軸とした回遊のみちづくり </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">元小山川と利根川と田圃</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◇水とみどりを身近に感じ、歩いて楽しい環境の充実（利根川や元小山川、若泉運動公園、若泉第一第二公園、城下公園などをつなぐ散策・自転車のルートなど） ◇小和瀬地区における農用地の保全・改良 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; text-align: center;">本庄道路</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ◇本庄道路と農業生産力を活かした交流機能の充実 ◇本庄道路と国道17号を軸とした広域幹線道路のネットワークの確立 <ul style="list-style-type: none"> ※渋滞緩和、緊急車輛の通行、災害物資の輸送等を考慮 ※本庄駅周辺を拠点とした集約型都市構造を構築するための、市街地拡散を助長する建築・開発行為の抑制（本庄道路及び国道17号沿道のうち、市街化区域との境界線に近い市街化調整区域） </td> </tr> </table>	本庄駅北口	<ul style="list-style-type: none"> ◇駅直近の交通利便性に恵まれた新しい市街地像の創出 <ul style="list-style-type: none"> ▶まちなみを活かした小規模で協調的な建替え等の促進 ▶地域の特徴を考慮した空き地・空き家の効果的な活用（空き地を活用した小規模な公園・緑地の確保など） ▶都市基盤の整備にあわせた土地の有効・高度利用の促進（定住の魅力を高める住宅・生活利便施設等の誘導） ▶若い世代のための多様な定住促進策の展開 ▶福祉・医療サービスの利用を前提とした加齢対応型住宅の誘導 ▶ライフステージの変化に対応した住み替え支援 ◇居住回復の進展にあわせた商業・サービス機能の誘導 ◇市民プラザ跡地複合施設を拠点とした市民活動や賑わいづくりの展開（まちづくり活動の連携等） 	中山道／銀座通り／本庄駅前通り	<ul style="list-style-type: none"> ◇本庄祇園まつり、本庄まつりのメインストリートとして、宿場町の名残を感じさせる修景・まちなみ形成 ◇蔵や町家、レンガ造りの建物、空き地を活用した賑わい・まちなか滞在の場所づくり ◇中山道を軸とした回遊のみちづくり 	元小山川と利根川と田圃	<ul style="list-style-type: none"> ◇水とみどりを身近に感じ、歩いて楽しい環境の充実（利根川や元小山川、若泉運動公園、若泉第一第二公園、城下公園などをつなぐ散策・自転車のルートなど） ◇小和瀬地区における農用地の保全・改良 	本庄道路	<ul style="list-style-type: none"> ◇本庄道路と農業生産力を活かした交流機能の充実 ◇本庄道路と国道17号を軸とした広域幹線道路のネットワークの確立 <ul style="list-style-type: none"> ※渋滞緩和、緊急車輛の通行、災害物資の輸送等を考慮 ※本庄駅周辺を拠点とした集約型都市構造を構築するための、市街地拡散を助長する建築・開発行為の抑制（本庄道路及び国道17号沿道のうち、市街化区域との境界線に近い市街化調整区域）
本庄駅北口	<ul style="list-style-type: none"> ◇駅直近の交通利便性に恵まれた新しい市街地像の創出 <ul style="list-style-type: none"> ▶まちなみを活かした小規模で協調的な建替え等の促進 ▶地域の特徴を考慮した空き地・空き家の効果的な活用（空き地を活用した小規模な公園・緑地の確保など） ▶都市基盤の整備にあわせた土地の有効・高度利用の促進（定住の魅力を高める住宅・生活利便施設等の誘導） ▶若い世代のための多様な定住促進策の展開 ▶福祉・医療サービスの利用を前提とした加齢対応型住宅の誘導 ▶ライフステージの変化に対応した住み替え支援 ◇居住回復の進展にあわせた商業・サービス機能の誘導 ◇市民プラザ跡地複合施設を拠点とした市民活動や賑わいづくりの展開（まちづくり活動の連携等） 								
中山道／銀座通り／本庄駅前通り	<ul style="list-style-type: none"> ◇本庄祇園まつり、本庄まつりのメインストリートとして、宿場町の名残を感じさせる修景・まちなみ形成 ◇蔵や町家、レンガ造りの建物、空き地を活用した賑わい・まちなか滞在の場所づくり ◇中山道を軸とした回遊のみちづくり 								
元小山川と利根川と田圃	<ul style="list-style-type: none"> ◇水とみどりを身近に感じ、歩いて楽しい環境の充実（利根川や元小山川、若泉運動公園、若泉第一第二公園、城下公園などをつなぐ散策・自転車のルートなど） ◇小和瀬地区における農用地の保全・改良 								
本庄道路	<ul style="list-style-type: none"> ◇本庄道路と農業生産力を活かした交流機能の充実 ◇本庄道路と国道17号を軸とした広域幹線道路のネットワークの確立 <ul style="list-style-type: none"> ※渋滞緩和、緊急車輛の通行、災害物資の輸送等を考慮 ※本庄駅周辺を拠点とした集約型都市構造を構築するための、市街地拡散を助長する建築・開発行為の抑制（本庄道路及び国道17号沿道のうち、市街化区域との境界線に近い市街化調整区域） 								
主な連携施策	<p style="text-align: center;">+</p> <ul style="list-style-type: none"> 【健康福祉】子育て支援のネットワークの充実・保育環境の整備／救急医療体制の充実／介護サービスの充実による安心基盤づくり 【教育文化】指定文化財の整備と活用・文化財施設等の充実と活用 【経済環境】魅力ある商業ゾーンづくり・商店街の活性化（中心市街地空き店舗対策事業等）／観光資源の開発（観光資源の活用と回遊型観光の充実） 								

(3) 本庄地方拠点都市地域基本計画

《計画の概要》

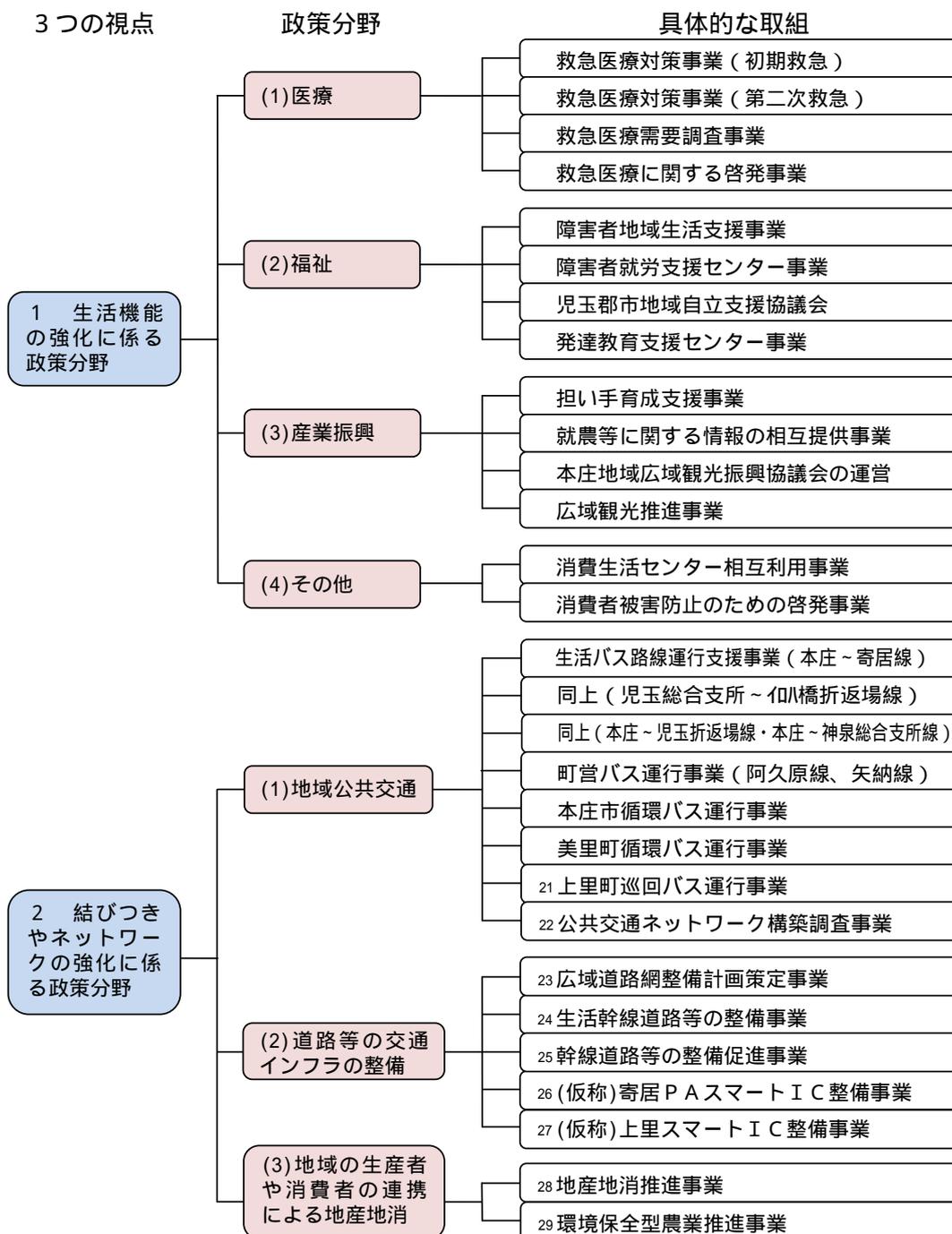
計画目標期間	平成 20 年度から概ね 10 年間
地域の構成	本庄市、美里町、神川町、上里町
地方拠点都市地域の整備の基本方針	<p>【将来像】</p> <p>『彩の国本庄科学田園都市』(本庄テクノガーデンシティ)</p> <p>【目標・整備方針】</p> <p>科学技術革新を先導する国際的な拠点づくり</p> <p>魅力と活力ある地域活動を支える都市基盤の整った地域づくり</p> <p>豊かな文化、自然を生かした定住環境を整えた地域づくり</p> <p>人口減少・高齢化・少子化に対応した持続可能な地域づくり</p>
想定人口	14 万人程度(平成 29 年度における将来人口)
地域別整備方針	<p>〔平野部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域交通ポテンシャルの高い国土線軸を中心に、本地域の広域拠点性を実現する高次機能の集積を図る。 ・本地域の分散的構造に対応した都心機能及び居住機能の形成を図る。 ・農村的ゆとりと都市的利便性を同時に実現する地域形成を図るため、生活・文化の中心地区の整備及び定住環境の整備を進める。 <p>〔河川部、丘陵・山地部〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然環境の調和に十分留意しつつ、都市的活動をサポートする地域として自然型レクリエーション機能の整備を図り、地域が一体となった拠点地域の形成を目指す。

《本庄地域の拠点の整備方向性》

拠点地区名	整備の方向性
本庄駅北口地区	本地域の都市的活動の中心として商業・業務機能等の集積を図り、にぎわいのある地域づくりの核として整備する。
本庄産業業務拠点地区	上越新幹線本庄早稲田駅の駅前地区として東京都心部等に集積する産業業務機能の受け皿として、また、早稲田リサーチパーク地区との連携のもとに、主に業務機能を中心とした新都心地区として高次都市機能の集積を図る。
北泉地区	本庄産業業務拠点地区、早稲田リサーチパーク地区との連携のもとに、交流・居住機能を中心とした新都心地区としての整備を図る。
早稲田リサーチパーク地区	早稲田大学による大学院をはじめとした高等教育機関、研究機関の充実や民間企業等による研究機関、人材育成機関の集積を図る。
児玉駅周辺地区	文化遺産の多い本地区では、古代から現代までを感じられる地域として、歴史民俗資料館等の整備を進め、文化振興を核とした地区形成を図る。

(4) 本庄地域定住自立圏共生ビジョン

計画期間	平成 22 年度から平成 26 年度までの 5 年間
圏域の将来像	<p>【まちづくりの基本理念】 世のため、後（のち）のため 圏域全体の発展と住民福祉の向上を推進し、魅力あふれる圏域の創造を目指す。</p> <p>安全で安心した生活が送れる社会の実現を目指し、誰もが住み続けたいと思える圏域を創造していく。</p> <p>定住のための暮らしに必要な諸機能を総体として確保し、自立のための経済基盤や地域の誇りを培う。</p>

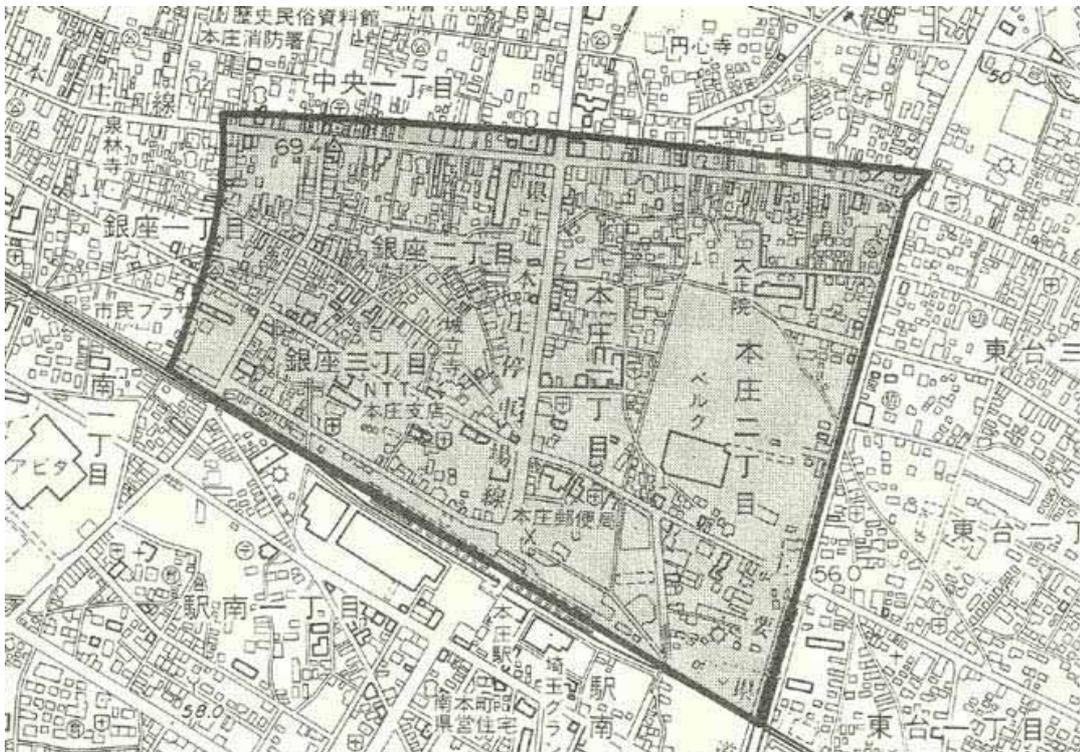


3 . 中心市街地の現況

(1) 中心市街地の区域

本計画における対象区域は、概ね J R 高崎線、十間通り線、中山道、市民プラザ跡地の西側道路に囲まれた下図の範囲(約 40ha) とします。

地域を町丁目別に見ると、銀座 1 丁目の一部(東側の面積約 32%の部分)、銀座 2 丁目、銀座 3 丁目、本庄 1 丁目、本庄 2 丁目、及び中山道以北沿道 25m の範囲で構成されています。



(2) 中心市街地の状況

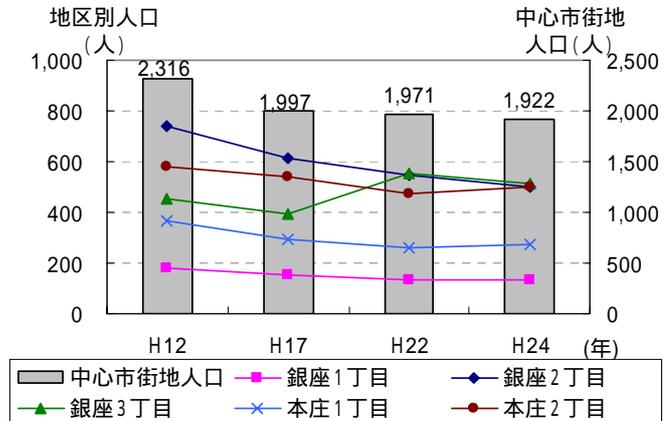
* 銀座1丁目のデータは面積比(32%)をかけた数値を使用)

人口・世帯

1) 中心市街地の人口動向

平成12年には約2,300人であった人口が平成24年には約1,900人にまで減少しています。

平成12年からの減少率をみると市全体では約2.8%(P7:人口世帯数参照)ですが、中心市街地では約17%となっており、減少傾向が著しい地域となっています。

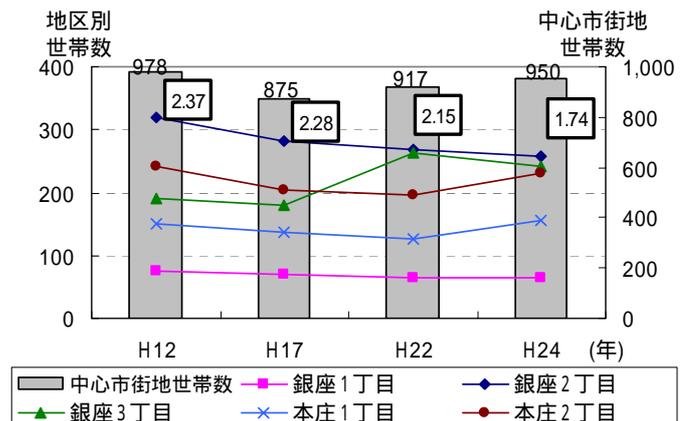


(資料: 住民基本台帳各年12月1日現在)

2) 中心市街地の世帯数動向

平成17年まで減少していたものの、以降は市全体と同様に増加傾向にあります。

しかし、平成12年に2.37人であった1世帯あたりの人員は、平成24年には1.74人に減少し、市全体の2.48人より低い値となっており、単身世帯が多い地域となっています。



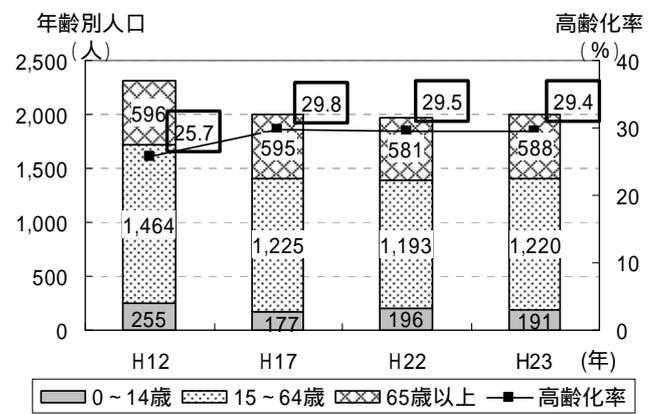
(資料: 住民基本台帳各年12月1日現在)

* 内の値は1世帯あたりの人員: 単位(人)

3) 中心市街地の年齢別人口と高齢化率

平成17年以降は年齢別で見ても大きな変動はなく横ばいとなっています。

高齢化率は、29%代で市全体の22.9%と比較すると高い値ですが、平成17年以後は上昇傾向に歯止めがかかり、ほぼ横ばいかやや低下傾向にあります。



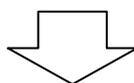
(資料: 住民基本台帳各年12月1日現在)

空き店舗・駐車場の実態

中山道や銀座通り、三交通り等で空き店舗が増加しています。また、駅前周辺を含め空き地や店舗跡地を利用した駐車場が増加しています。

《空き店舗・駐車場の状況》

平成 12 年当時



平成 24 年現在



4. 市民意向（アンケート調査）調査結果

（1）中心市街地活性化に関するアンケート（平成24年11月実施）

本計画検討の参考とするため、中心市街地を生活圏とする市民等の意見を調査しました。

調査方法は、平成24年11月にJR本庄駅や本庄駅周辺の大型店舗の利用者に対する街頭アンケートと、中心市街地区域内の企業・店舗より任意に抽出した12社（店）の従業員に対する調査票式アンケートを実施しました。（街頭アンケート：約380名、調査票式アンケート：約240名、合計：約620名から回答を得ました。）

中心市街地に関する主な意見は、以下のようなものがありました。

- ・ 住宅と商店が程よく調和したまちを望む方が約5割と最も多くなりました。地区内の居住者に限定すると、約6割と更に高くなりました。
- ・ 商業を中心としたまちを望む方は約3割でした。
- ・ 中心市街地に歴史的資産を感じるものがあると回答した方のうち、寺社、古民家、蔵など、残された歴史資源をまちづくりに活かすべきとする方が8割以上でした（蔵をコミュニケーションの場にする、蔵や古民家をカフェにするなどの意見があった）。
- ・ 公園（ベンチ）、歩道や自転車道の充実を求める意見が多くみられました。
- ・ 駅前広場の使い勝手について、「良くない」が約7割を占めました。
（主な理由）ロータリーが狭い
送迎時用の駐車場・駐車スペースがない
駅前に待ち合わせや時間つぶしに使える店がない
- ・ 駐車場については、不足していると必要ないに意見が二分しました。不足していると答えた人の多くは、無料（安い）駐車場がないという意見でした。

* アンケート結果の詳細は巻末資料編、資料1に掲載

アンケートからは、市民は本庄駅北口の中心市街地の姿として、“整備された歩道や自転車道を利用して、地域コミュニティの場として活用された蔵や、寺社などの歴史資源、公園を回遊することができる、住宅と商店が程良く調和したまち”を望んでいることが推察されます。

また、駅前には、車による使い勝手の良さと、気軽に立ち寄れる飲食店などが立地していることを望んでいるという意見がありました。

(2) 本庄市都市計画マスタープランアンケート(平成24年3月実施)

本庄市都市計画マスタープランの策定に向けて平成24年3月に行った市民意識調査においても、中心市街地を含む本庄駅北口周辺のまちについて、市民の意識・意向を把握できる意見について整理しました。

- ・日常生活(買物・通勤通学・病院等)における交通手段は、自家用車が7、8割と最も多く使われています。
- ・市内種々の要素の満足度について、満足度が高いのは、自然環境など緑の豊かさであり、満足度が低いのは、医療機関・福祉・子育て施設へのアクセスなどでした。
- ・市の評価で、高い評価を得たのが「災害の少なさ」であり、評価が低かったのは「教育環境」でした。
- ・本庄駅周辺のまちづくりに望むこととして、「中心市街地の活性化を望む」を選択した方が回答者の約6割と高く、ついで「生活道路や歩行者・自転車道の整備」の約3割となりました。
- ・本庄駅周辺の居住者は、日常の暮らしやすさ評価が高く、買い物の利便性の満足度も高い値でした。

本庄駅周辺の住民は、暮らしやすさや買い物の利便性の満足度が高かったものの、市民全体の意向としては、中心市街地の活性化を望む意見が多く、寂しいと感じている方が少なくないことが推察されました。